

第7節 保健体育

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 「中学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領解説」、「埼玉県中学校教育課程編成要領」の趣旨を踏まえるとともに、「埼玉県中学校教育課程指導資料」と関連して活用できるよう作成した。
- (2) 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」22文科初第1号（平成22年5月11日付）、「評価規準の作成のための参考資料」国立教育政策研究所（平成22年11月）を参考とした内容とする。

2 取り上げた内容

学習評価活動の実践例については、体育分野の各領域、保健分野ともに第2学年の例を掲載している。各領域の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例、学習活動に即した評価規準を表記し、単元の計画（指導と評価の計画）とともに示している。

3 本資料の活用にあたって

- (1) 本事例では、「教育課程指導資料」との関連を図り、取り扱う学年を第2学年とした。「学習指導要領」に基づき、指導する内容を示すとともに、単元の目標からは評価事例として示している。
- (2) 各領域の評価規準については、評価規準に盛り込むべき事項に基づき示している。評価規準の設定例では、「学習指導要領」及び「学習指導要領解説」の例示を基に、第1、2学年のどちらの学年で実現状況を判断するかを参考を示している。さらに、学習活動に即した評価規準では、第2学年で実現状況を判断する評価規準を、生徒の学びの姿がイメージできる表現で示している。
- (3) 単元の計画（指導と評価の計画）の中に評価機会を示し、教師の指導と評価機会の関係性を示すとともに、各観点の主な評価方法について示している。

第2 保健体育科における評価

1 学習評価の基本的な考え方

平成20年3月に告示された学習指導要領においても「生きる力」をはぐくむという理念は継承されていることから、現行の学習評価の在り方を基本的に維持し、その深化を図る。したがって、目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定を着実に実施することにより、その妥当性と信頼性を高め、学習指導と評価の一体化を一層推進することが重要である。

2 評価規準の作成と実践化への配慮事項

- (1) 評価の観点は、従来通り、「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」、「運動や健康・安全についての思考・判断」、「運動の技能」、「運動や健康・安全についての知識・理解」の4観点である。保健体育科における「表現」の取扱いについては、例えば、「G ダンス」領域における「表現」が技能を示すものであること等から、今後も「技能」の観点で評価することとされた。
- (2) 「A 体づくり運動」の「体力を高めるための運動」は、従来「運動の技能」の観点も評価を行っていたが、「技能」については「運動についての思考・判断」の観点で整理することとされた。これは、体ほぐしの運動は技能の獲得・向上を直接のねらいとするものでないこと、体力を高める運動は運動の計画を立てることが主な目的となること等から「技能」の観点を設定しないこととなったものである。
- (3) 評価の妥当性と信頼性を高めるとともに、より効果的・効率的な評価方法を工夫する。
 - ア 生徒の学びの姿を想定し、実現状況の判断が可能な評価規準を作成するとともに、不断の見直しを図り評価の妥当性と信頼性を高める。
 - イ 保健体育科担当教員で共通理解を図り、評価結果を検証し指導法の改善や個々の生徒の指導にフィードバックする。
 - ウ 大単元等、可能であれば一つの観点について複数回の評価機会を設定し、妥当性のある実現状況の判断ができるように計画する。
 - エ 「思考・判断」「知識・理解」の観点については、指導後問をあげずに評価機会を設定し、「関心・意欲・態度」「技能」の観点については、指導後実現状況の判断が適切な時機になされるよう評価機会を設定する。
 - オ 各観点の規準数を厳選して設定するとともに、一単位時間中に、観察による評価の観点を複数設定しないよう留意する。

第3 学習評価活動の実践例

体育分野

A 体づくり運動 第2学年

1 領域・種目の特性

体づくり運動は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成され、自他の心と体に向き合って、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりますることができている領域である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようになる。また、体づくり運動の学習に積極的に取り組み、分担した役割を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、自己の健康や体力の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようになる。

ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。

イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせ、運動の計画に取り組むこと。

(2) 体づくり運動に積極的に取り組みとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようになる。

(3) 体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元目標

(1) 積極的に取り組みとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや健康・安全に気を配ることができるようになる。
(関心・意欲・態度)

(2) 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
(思考・判断)

(3) 体力を高め、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようになる。
(運動)

(4) 体づくり運動の意義と行い方、運動の組み立て方などを理解できるようにする。
(知識・理解)

5 「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
体づくり運動の楽しさや心地よさを味わうことができれば、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高め、運動の計画の立て方などや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高め、運動の計画の立て方などや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。		体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解している。

	【体づくり運動の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関・意・態	・体づくり運動の学習に積極的に取り組みようとしている。(1・2年) ・分担した役割を果たそうとしている。(1年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・健康・安全に留意している。(1・2年)	①自己の体力に応じた課題を設定し、進んで体力を高めている。 ②体力を高める運動の実施回数や時間を、ペアやグループで記録し、気付いたことを仲間に助言しようとしている。 ③自他の健康状態を把握し、体調に応じて活動している。
思・判	・体ほぐしのねらいである「心と体の関係に気付く」、「体の調子を整える」、「仲間と交流すること」を踏まえて、課題に応じた活動を選んでいる。(1年) ・関節や筋肉の働きに合った合理的な運動の行い方を選んでいる。(1年) ・ねらいや体力に応じて効率よく高める運動例やバランスよく高める運動例の組合せ方を見付けている。(2年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。(1年) ・仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。(2年)	①ねらいが異なる運動を組み合わせ、効果的な活動方法を見付けている。 ②用具を安全に配置するなど、単元前半に学習した内容を各自の運動の仕方や場に当てはめている。
技・能		
知・理	・体づくり運動の意義について、理解したことを言ったり書き出したりしている。(1年) ・体づくり運動の行い方について、学習した具体例を挙げている。(1・2年) ・運動の計画の立て方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。(2年)	①ストレッチやラダー、サーキット等の行い方について、理解したことを、言ったり書き出したりしている。 ②柔軟性や敏捷性、筋力、全身持久力などの体力を高める方法を、言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）第2学年

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ねらい	<はじめ> ○運動の特性や自己の適性、体力を高めて、必要な運動を理解し、学習の意欲をもつ。	<なか1> ○いろいろな運動のねらいを理解し、ねらいに応じた運動を正しく行うことができる。			<なか2> ○自己の体力に応じた課題を設定し、運動の行い方や負荷等を工夫しながら体力の向上を図ることができる。				<まとめ> ○学習の成果を評価し、日常生活に生かすための課題や手かきをもとめる。
学習過程	1 オリエンテーション ・単元の目標や体力を高めて、必要な運動を理解する。 ・学習の流れや学習の意欲をもつ。 2 学習ノートの活用・記入方法の理解 ・心拍数や主観的運動強度について知る。 ・課題を設定する。 3 体ほぐし運動の行い方の理解	1 体力を高める運動Ⅰ（運動例の実施） ○体の柔らかさ 柔軟運動 サークル走 新聞紙投げ ○力強い動き スクワット 懸垂 ○体の柔らかさ 静的ストレッチ ○巧みな動き ジョグザグ走 ボールキック ○力強い動き タイヤ引き チューブ ○体の柔らかさ 動的ストレッチ ○巧みな動き ラダ 棒つかみ ○力強い動き 手押し車 筋トレ 2 体力を高める運動Ⅱ（動きを継続する能力を高める運動） ○縄跳びサーキット ○8の字跳び 3 運動方法等のまとめ (1) 運動のねらい (2) 運動の実施方法 (3) 工夫の仕方・留意点 (4) 記録等の記入方法 3 プログラムの作成方法を理解する ○ねらいが異なる運動の組み合わせ (1) トレーニングの原則 (2) 自己の課題の確認 (3) 種目選択 (4) 強度や負荷の設定	1 発表会リハーサル 【ペア1】 ①自己の課題や工夫点の説明 ②用具の準備 ③プログラム実践（ペア1） 【ペア2】 ①自己の課題や工夫点の説明 ②用具の準備 ③プログラム実践（ペア1） 2 各自のプログラムのまとめ ①お互いのプログラムについて評価助言する。 ②助言を生かして、プログラムを修正する。 ③ねらいが異なる運動を組合せて、効果的な運動方法を作成する。	1 体力を高める運動 (1)ねらいが異なる運動の組み合わせの計画の実践 体の柔らかさ 力強い動き 巧みな動き (2)プログラムの修正 (1)運動の正確性 (2)心拍数や主観的運動強度を基にした種目や強度、負荷 (3)運動の工夫の仕方 (4)用具の配置場所 2 動きを継続する能力を高めるための運動 縄跳びサーキット 8の字跳び シャトルラン ↑ 1 種目選択して実施	【思考・判断】 ・ねらいが異なる運動を組合せて、効果的な活動方法を見付けている。	【知識・理解】 ・定期試験において、知識・理解、思考・判断の実現状況を判断する試験を行う。			
関		③					①	②	
思				①	②			①	
技									
知				①				②	(①,②)
評価方法等	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。 【思】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。 【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。 【思】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。 【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。 【思】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。 【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。 【思】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。 【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。	「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【思】資料や参考例を基に教師が個別に解説し、強度や負荷を設定させる。	「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【思】具体的な行動の仕方等、個別に助言する。	【関】授業中の観察により実現状況を判断する。 【思】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。 【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。	【知】授業後の学習ノートにより実現状況を判断する。

B 器械運動（跳び箱運動） 第2学年

1 領域・種目の特性

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、技の行い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

(2) 器械運動に積極的に取り組みとともに、よい演技を認めようとする、担当した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

(3) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元目標

(1) 積極的に取り組みとともに、よい演技を認めようとする、担当した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

(2) 基礎的な知識や技能を活用して、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

(3) 技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。（技能）

(4) 器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解することができるようにする。（知識・理解）

5 「B 器械運動」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

【B 器械運動】の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を認めようとする、担当した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。	器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じた技を身に付けている。	器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。

	【器械運動の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関 意 ・ 態	・器械運動の学習に積極的に取り組みようとしている。 ・よい演技を認めようとしている。(1年) ・担当した役割を果たそうとしている。(2年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・健康・安全に留意している。(1・2年)	①練習や発表を円滑に進めるために、器械・器具の出し入れなどの分担した役割に進んで取り組みようとしている。 ②進んで仲間の試技に対して補助したり、挑戦する技の行い方を仲間に助言したりしようとしている。 ③器具の安全な設置や滑り止めなどを使ったり、使用しない器具を安全な場所に置いたりするなど、活動が安全に行える場を整えている。
思 ・ 判	・学習する技の合理的な動き方のポイントを見付けている。(1・2年) ・課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。(1年) ・仲間と学習する場面で、仲間のよい動きなどを指摘している。(2年) ・仲間と学習する場面で、学習した安全上の留意点を当てはめている。(1年) ・学習した技から、「はじめーなかーおわり」などの構成に適した技の組み合わせを見付けている。(マット・鉄棒・平均台)	①着手位置や姿勢、着地など一連の動きについて、条件を変えても滑らかに行うポイントを見付けている。 ②仲間の目指す技能の程度と実際の運動の程度の違いや、動きのよさを指摘している。
技 能	・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。(1・2年)	①着手位置、姿勢などの条件を変えたり、学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳び越したりすることができ。
知 ・ 理	・器械運動の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。(1年) ・技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・器械運動に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(2年)	①技の系やグループの分類や名称、技を滑らかに行うための技術的なポイントを言ったり書き出したりしている。 ②器械運動を継続すること、筋力や柔軟性、平衡性などが関連して高められることを言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画(指導と評価の計画) 第2学年

[illegible]

C 陸上競技（ハードル走） 第2学年

1 領域・種目の特性

陸上競技は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。また、陸上競技の学習に積極的に取り組み、ルールやマナーを守ることや、分担した役割を果たすことなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。
- ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。
- イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。
- (2) 陸上競技に積極的に取り組みとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようになる。
- (3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元の目標

- (1) 積極的に取り組みとともに、勝敗を認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようになる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己の課題に応じた練習や運動の取り組み方を工夫することができるようになる。
(思考・判断)
- (3) リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができるようにする。
(運動の技能)
- (4) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。
(知識・理解)

5 「C 陸上競技」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

【C 陸上競技】の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。	陸上競技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	陸上競技の特性に応じた、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けている。	陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。

	【陸上競技の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関・意・態	・陸上競技の学習に積極的に取り組みようとしている。(1・2年) ・勝敗を認め、ルールやマナーを守ろうとしている。(1年) ・分担した役割を果たそうとしている。(1年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・健康・安全に留意している。(1年)	①3歩のリズムで素早く跳び越す練習や競技会に進んで取り組みようとしている。 ②学習課題の解決に向けて、進んで仲間を助言しようとしている。
思・判	・技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(2年) ・課題に応じた練習方法を選んでいく。(2年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けていく。(1年) ・学習した安全上の留意点を他の練習や競争場面に当てはめている。(1年)	①3歩のリズムで素早く跳び越す振り上げ足や抜き足のポイントを見付けている。 ②練習方法や補助具を各自の課題に応じて選んでいる。
技能	・リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すことができる。(1・2年)	①3歩のリズムで素早く跳び越すことができる。 ②遠くから踏み切って、勢いよくハードルを越すことができる。
知・理	・陸上競技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。(1年) ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・陸上競技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(1・2年)	①ハードル走の抜き脚の技術構造について言ったり書き出したりしている。 ②技能の進歩を確かめる方法や修正する方法を言ったり書き出したりしている。 ③ハードル走と関連して、敏捷性や瞬発力が高められることを言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）第2学年

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	【学習Ⅰ】 ○運動の特性や学習のねらい、学習計画を理解する。 ○学習内容を知り、学習の見通しをもつ。		【学習Ⅱ】<ねらい1> ○技能構造を理解し、各種の練習を通して基礎的な技能を習得する。 ○グループ学習から自己の課題を把握する。		<ねらい2> ○自己の課題を解決するための練習を通して、技能を高める。 ○グループ学習で高まった技能を評価し合う。		【学習Ⅲ】 ○高まった体力や技能で記録会を行う。 ○単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。			
	○集合・あいさつ、健康観察、本時のねらいの確認、準備運動・ランニング、用具の準備									
学習過程	1 学習の見通し ・運動の特性や楽しみ方を理解し、自己の適性等について考える。 ・自己の能力に適した陸上競技の走種目を選択する。		1 ハードル走の技能構造と練習方法の理解 (1) ランニングスビードの練習 *ミニハードル走・負荷走 (2) インターバルのリズムの練習 *3歩のリズムでゴールできるインターバルの確認 *一歩ハードル走		(3) ハードル走の練習1 *振り上げ足動作 *抜き足動作 *腕の動作や上体の動作の練習 (4) ハードル走の練習2 *踏み切り位置と着地位置の練習 2 資料を基に仲間と助言し合い、課題の設定や練習方法の選択		1 課題を確認する記録会 ○設定した課題が含まれているか、記録会から確認する。 2 相互評価を行う ○お互いの課題や練習方法について確認 3 自己の課題を解決するための課題別練習 ○練習方法(1)～(4)の中から自己の課題に合った練習を選択して実施する。		1 自己の課題を解決するための課題別練習 ○練習方法(1)～(4)の中から自己の課題に合った練習を選択して実施する。 2 様々な競走で記録の達成に挑戦 (1) 同じインターバルコースのグループで競走 (2) 同程度のタイムのグループで競走	
	2 陸上競技の学習 ・単元の目標、陸上競技の特性やねらいを把握する。 ・学習の流れ、約束事を理解する。 ・学習カードや資料の使い方を理解する。 ・グループ編成、役割分担をする。		2.3 記録の測定 ・50m走 ・50mハードル走				4 記録測定 ○課題を意識したハードリングで記録測定を行う。		3 単元のまとめ ○学習の振り返りとまとめ	
関						②			①	
思				①	②			②		
技			①				②			②
知		③		①				②		(①～③)
評価方法等	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。		【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【努力】 学習カードの記述に対して、具体的なポイントを助言し理解させる。		【関】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】、【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【努力】 学習カードの記述に対して、具体的なポイントを把握させる。		【関】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】、【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【努力】 学習カードの記述に対して、具体的なポイントを把握させる。		【関】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	

D 水泳 第2学年

1 領域・種目の特性

水泳は、クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどから構成され、浮く、進む、呼吸するなどのそれぞれの技能の組み合わせによって成立している運動で、それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。また、水泳の学習に積極的に取り組み、ルールやプールでのマナーを守ることや分担した役割を果たすことなどに意欲をもち、健康や水中での安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。

- ア クロールでは、手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。
- イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。
- ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。
- エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。

(2) 水泳に積極的に取り組みむとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようになる。

(3) 水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元の目標

- (1) 積極的に取り組みむとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようになる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己やペアの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
(思考・判断)
- (3) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身に付けることができるようにする。
(技能)
- (4) 水泳の成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。
(知識・理解)

5 「D 水泳」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

【「D 水泳」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
水泳の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。	水泳を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	水泳の特性に応じた泳法を身に付けている。	水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。

	【水泳の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準例】
関・意・態	・水泳の学習に積極的に取り組みようとしている。 (1年) ・勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 (1年) ・分担した役割を果たそうとしている。 (2年) ・仲間の学習を援助しようとしている。 (2年) ・水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に留意している。 (1・2年)	①練習や記録会で、計測などの分担した役割に進んで取り組みようとしている。 ②水中で手を持つなど、進んで仲間の学習を補助したり、課題解決に向けて仲間に助言したりしようとしている。 ③活動中の自他の健康状況や、活動場所の安全を確かめている。
思・判	・泳法を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 (1・2年) ・課題に応じた練習方法を選んでいく。 (2年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けていく。 (1年) ・学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。 (1・2年)	①クロールでは速く泳ぐ、平泳ぎでは長く泳ぐためのポイントを仲間の助言や学習資料などから見付けていく。 ②背泳ぎ、バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとるための、自己の課題に合った練習法を選んでいく。 ③単元前半に学習した安全に関する内容を、各自の練習の仕方や、場に当てはめている。
技 能	・クロールでは、手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができる。 (1年) ・平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができる。 (1年) ・背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 (2年) ・バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐことができる。 (2年)	①背泳ぎでは、水平に浮いてキックし、直線的なりカバリーから肘が肩の横で60～90°程度曲がるようにかくブルの動きで泳ぐことができる。 ②バタフライでは、ドルフィンキックをし、キーホール形に水をかき、2キック目に呼吸して泳ぐことができる。
知・理	・水泳の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げていく。 (1年) ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げていく。 (1・2年) ・関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げていく。 (1・2年)	①泳法に合ったブルやキックやコンビネーションの名称や行い方について理解したことを言ったり書き出したりしている。 ②短距離泳では瞬発力、長距離泳では全身持久力など、関連して高まる体力について具体例を挙げていく。

6 単元の計画（指導と評価の計画）

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ねらい	【学習Ⅰ】 ○水泳の特性や学習のねらい、学習計画を理解する。 ○学習の内容を知り、学習の見通しを理解する。		【学習Ⅱ】＜ねらい1＞ ○クロール・平泳ぎについて自己の課題解決に向けて、練習方法を工夫して積極的に取り組み、向上した泳法で泳ぐことができる。		＜ねらい2＞ ○平泳ぎ・バタフライについて、自己の課題解決に向け、練習方法を工夫して取り組み、泳法を身に付けて泳ぐことができる。				【学習Ⅲ】 ○記録会を行い、学習の成果を確認し、単元の評価をし、学習に向けての課題や手がかかることをまとめる。	
	○集合、あいさつ、出席点呼、準備運動、水慣れ	1 泳法チェック ・自己評価・相互評価から課題を明確にし、自己の課題に応じた練習を見付けたり、練習を選んだりする。 ○クロールの課題 ・呼吸 ・ばた足キック ・S字ブレイク ・ストリームライン ○平泳ぎの課題 ・呼吸 ・カエル足キック ・逆ハート型ブレイク ・スタート(1ストローク1キック)	1 課題の確認 2 選択した泳法で速く泳いだり、長く泳いだりするための練習 ○クロールは、25mをスピードを高めて泳ぐ練習 ・S字を描くように水をかくブレイクの動きの習得 ・ローリング動作と呼吸のタイミングを取る動きの習得 ○平泳ぎは、余分な力を抜いた動作でバランスを保ち100mを続けて泳ぐことを目指した練習 ・キックの習得 ・ブレイクのかき終わりと同時に毎回呼吸をする動きの習得		1 背泳ぎ・バタフライの泳法の習得 ○背泳ぎコース ・浮き身(腰を伸ばしたあお向け浮き) ・キック(背浮きばた足) ・ブレイク(スカリングブレイク) ・呼吸 ○バタフライコース ・ブル(キープホルダー型) ・フィンキック ・呼吸	1 背泳ぎ・バタフライの泳法の習得 ○背泳ぎコース ・前時の復習 ・コンビネーションなど ○バタフライコース ・前時の復習 ・コンビネーション(1ストローク2キック)など	1 選択した泳法での、課題を解決する練習 (二人組) ○背泳ぎは、リラックスした仰向けの姿勢で、手と足の動作と呼吸動作のタイミングを合わせて25m泳ぐことを目指した練習 ・水平に浮いてキックする動きの習得 ・直線的なリカバリーから肘が肩の横で60～90°程度曲がるように動く動作の習得 ○バタフライは、リラックスした伏し浮きの姿勢で手と足の動作と呼吸動作のタイミングを合わせて25m泳ぐことを目指した練習 ・ドルフィンキックの習得 ・キーホール形を描いた水のかきの習得 ・2キック目のタイミングを取る呼吸の習得	1 記録会 ・距離泳 ・記録測定 ・リレーなど 2 授業の成果の確認 ・学習カードの記入など ○定期考査、学習カードにおいて、知識・理解、思考・判断の実現状況を判断する試験を行う。		
学習過程										
評価方法等	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、ペア学習における実現状況を判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。

E 球技（ソフトボール） 第2学年

1 領域・種目の特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。また、球技の学習に積極的に取り組み、フェアにプレイすること、分担した役割を果たすことや、話合いに参加することなどに意欲をもち、自己の健康や安全に気を配るとともに、技術の名称や行い方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。

イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。

ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。

(2) 球技に積極的に取り組みとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどことや、健康・安全に気を配ることができるようになる。

(3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元の目標

(1) 積極的に取り組みとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようになる。
(関心・意欲・態度)

(2) 自己やグループの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
(思考・判断)

(3) 勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開できるようにする。
(技能)

(4) ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解できるようにする。
(知識・理解)

5 「E 球技」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

「E 球技」の評価規準に盛り込むべき事項

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組みようとしている。	球技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	球技の特性に応じたゲームを展開するための基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付けている。	球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

	【球技の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関・意・態	・球技の学習に積極的に取り組みようとしている。(1年) ・フェアなプレイを守ろうとしている。(1年) ・分担した役割を果たそうとしている。(1年) ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。(2年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・健康・安全に留意している。(1・2年)	①チームの課題の解決にむけて、自らの考えを述べるなど進んで話し合いに参加しようとしている。 ②進んで球出しなどの補助をしたり、チームの作戦や戦術などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしている。 ③用具の扱い方や練習場所などに気を配り、活動が安全に行える場を整えている。
思・判	・ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(1年) ・自己やチームの課題を見付けている。(2年) ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいく。(2年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じて協力の仕方を見付けていく。(2年) ・学習した安全上の留意点を他の練習場面や試合場面に当てはめている。(1年)	①提供された練習例から自己やチームの課題を見付けている。 ②提供された練習例や学習資料などから、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいく。 ③用具の準備や片付け、記録や審判など自己に与えられた役割など、新しい練習や試合に応じた協力の仕方を見付けていく。
技能	・ベースボール型では、攻防を展開するための基本的なバット操作、走塁での攻撃、ボール操作、定位置での守備などの動きができる。(1・2年)	①タイミングを合わせてボールを打ったり、打球の状況に応じて走塁を減速したり反転したりできる。 ②投げる腕を後方に引きながら足を踏み出して大きな動作でボールをねらった方向に投げたり、ベースカバレーやバックアップの基本的な動きができる。
知・理	・球技の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。(1年) ・技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・球技に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。(1年)	①ソフトボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦の名称やその具体的な行い方や活用方法を言ったり書き出したりしている。 ②ソフトボールを行うことで、巧緻性、敏捷性、瞬発力、筋力などが高められることを言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）第2学年

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	【学習Ⅰ】 ○運動の特性や学習のねらい、学習計画をを理解する。	【学習Ⅱ】＜ねらい1＞ ○自己やチームの課題に応じて練習を工夫し、ゲームを楽しくする。 (1年生の復習)	＜ねらい2＞ ○高まった技能で、チームに応じた練習や作戦を工夫してゲームを楽しむ。	○高まった技能で、チームに応じた練習や作戦を工夫してゲームを楽しむ。						
学 習 過 程	1 学習の見直し ・運動の特性や楽しみ方を理解し、自己の適性等について考える。 2 ソフトボールの学習 ・ソフトボール運動は、バット操作と走塁による攻撃、ボール操作と定位位置による守備の視点によって分類されていること。 ・種目において用いられる技術や戦術、作戦の名称やその器具的に行い方や活用方法があること。 ・学習カードや資料の使い方。 ・グループ編成、役割分担、用具の準備方法。 ・ソフトボールを行うことで巧緻性、敏捷性、瞬発力、筋力などが高められること。	1 攻撃、守備の基本的となる技能の練習 (攻撃) ・素振りの練習を行う (バットの握り方、肩越しでのバットの構え、地面と水平なスイングの確認)。 ・ボールを打ち返す練習を行う (止まったボール打つ、トスバッティング練習、バント練習)。 ・走塁練習を行う (全速力での一塁への駆け抜け、二塁の進塁練習)。 (守備) ・キャッチボールを行う (ボールを受ける前の準備、グラブの使い方、ボールの捕球と投球)。 2 ゲームⅠ ・グラウンドを三角ベースにしたり、人数を少なくしそれに応じた特別ルールを用いるなどとして、バット操作、ボールの動きを意識させたゲームを行う。	1 攻撃のチーム練習 (攻撃) ・ボールを打ち返す練習を行う (前方からのボールを打つ、守備者をつけてのフリーバッティング)。 ・走塁練習を行う (ベースランニング、二・三塁間での進塁の判断プレー)。 2 ゲームⅡ ・打者一巡で攻守を入れ替えるルールで行う。チームの攻撃の課題を確認しながらゲームを行わせる。 ・学習ノートに仲間へのアドバイスやチームの課題を書き出す。	1 守備のチーム練習 (守備) ・捕球から送球練習を行う (個人ノック、守備位置を決め投げる場所を指定したシートノック)。 ・定位置からの練習を行う (構えからのカバースカバックアップ、ベースカバールの動き)。 2 ゲームⅢ ・ランナーを1塁に出塁させた状況からゲームを始めるの守備の課題を確認しながらゲームを行わせる。 ・学習ノートに仲間へのアドバイスやチームの課題を書き出す。	○ 集合、あいさつ、健康観察、本時のねらいの確認、用具等の準備、準備運動					1 まとめのゲーム 2 単元のまとめ ・学習カードの記入等を行う。 ○定期考査において、知識・理解、思考・判断の実現状況を判断する。
	関	③			①	②				
	思		③			①		②		
	技		①				①			②
	知	②					①			(①,②)
評価方法等	【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【技】 については、定期考査・単元末試験により実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【技】 については、定期考査・単元末試験により実現状況を判断する。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【技】 については、定期考査・単元末試験により実現状況を判断する。	【関】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】、【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【技】 適切な条件で活動できているかを学習資料や映像機器を用いて確認させる。 【思】 学習カードの記述に対して、助言や質問を記載し自己の現状を確認させる。						

F 武道（剣道） 第2学年

1 領域・種目の特性

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。また、武道の学習に積極的に取り組み、伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、礼に代表される伝統的な考え方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。
- ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。
- イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたたりするなどの攻防を展開すること。
- ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押したり寄ったりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようになる。
- (3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
- 4 単元目標
- (1) 積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ手を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようになる。
- (2) 自己やペアの課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。
- (3) 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたたりするなどの攻防を展開できるようにする。
- (4) 剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解する。

5 「F 武道」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

【F 武道】の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
武道の楽しさや喜びを味わうことができよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している、学習に積極的に取り組もうとしている。	武道を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	武道の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身に付けている。	武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

	【武道の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関・意・態	・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。(1年) ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。(1・2年) ・分担した役割を果たそうとしている。(1年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・禁じ手を用いないなど健康・安全に留意している。(1年)	①剣道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重し合うための独自の作法、所作を進んで守ろうとしている。 ②進んで、仲間の練習相手を引き受けたら、技の行い方などを教え合ったりしようとしている。
思・判	・技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。(1年) ・課題に応じた練習方法を選んでいる。(2年) ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。(2年) ・学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。(1年)	①課題解決に適した練習の仕方や学習の場を選んでいる。 ②相手の動きに応じた本立ちの動きを確認するなど、協力の仕方を見付けている。
技 能	・打ったり受けたりするなどの攻防を展開するたための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。(1・2年)	①相手の動きに応じて歩み足や送り足を使った体さばきができる。 ②体さばきを使って、(小手一面打ち)の二段技や引き面などの引き技ができる。
知・理	・武道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。(1年) ・武道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。(1年) ・技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げていく。(2年) ・武道に関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・試合の行い方について学習した具体例を挙げていく。(2年)	①基本動作や対人的な技能の構造を言ったり書き出したりしている。 ②剣道を通して瞬発力、敏捷性、巧緻性などが関連して高められることを言ったり書き出したりしている。 ③剣道の礼法や試合の運営、ルール、審判の方法を言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）第2学年 <F 武道（剣道）>

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
ねらい	【学習Ⅰ】 ○剣道の特性や学習のねらい、学習計画を理解する ○学習内容を知り、学習の見通しをもつ。		【学習Ⅱ】＜ねらいⅠ＞ ○礼法や基本動作を身に付けるとともに基本となる技を習得することができる。		＜ねらいⅡ＞ ○身に付けた基本となる技を生かして練習を工夫し、攻防を楽しむことができる。		【学習Ⅲ】 ○高まった技能で自由練習やごく簡単な試合を行い、学習のまとめをする。					
学習過程	○ 準備運動、ランニング、防具の着装、ねらいの確認 1 学習の見通し ・運動の特性や楽しみ方を理解し、自己の適性等について考える。 ・自己の能力に適した課題を選択する。 2 剣道の学習 ・単元の目標、剣道の特性や歴史を理解する。 ・礼儀作法についての意味や方法を理解する。 ・学習の流れ、約束を理解する。 ・グループを編成し、役割を分担する。 ・防具の着脱について理解する。 3 構え・足さばき・素振りの仕方の習得 1 基本動作の練習 ・礼法 ・構え ・体さばき 2 基本打突の練習 ・正面打ち ・左右面打ち ・小手打ち ・胴打ち 1 基本動作の練習 ・体さばき ・中段の構え 2 切り返しの練習 ・一人で ・二人組で 3 基本となる技の練習 ・二段技 ・小手一面 ・面一面 1 切り返しの練習 ・一人で ・二人組で 2 基本となる技の練習 ・引き技 ・引き面 ・引き胴 3 資料を基に仲間と助言し合い、課題の設定や練習方法の選択 1 基本動作の習得 ・基本打突の仕方・受け方足さばきゲーム・素振りゲーム 2 基本打突の習得 ・正面打ち・小手打ち・胴打ち、切り返し打ち 3 2人組による対人的技能の習得 (1) 習得する技を選択して行う。 ○二段技 ・小手一面 ・面一面 ・小手一胴 ○引き技 ・引き面 ・引き胴 ・引き小手 (2) 練習方法を選択して行う。 ○かかり練習 ○約束練習 ○自由練習 4 簡易試合 1 約束練習・自由練習 ○二段の技 ○引き技 2 まとめの試合 ・個人戦 ○リーグ戦 3 単元のまとめ ○学習の振り返り ○まとめ											
関	○ 本時の学習のまとめ、整理運動、あいさつ、片付け											
思			①					②	①			
技					①			②		②		
知	②		①		①		②			(①～③)		
評価方法等	【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。		【態】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 学習資料の使い方、具体的な課題を提供しながら課題別の練習の仕方を理解させる。 【思】 学習カードの記述に対して、具体的なポイントを助言し理解させる。			【態】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】 学習資料の使い方、具体的な課題を提供しながら課題別の練習の仕方を理解させる。 【思】 学習カードの記述に対して、具体的なポイントを助言し理解させる。		【態】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】、【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【努力を要する】と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【思】 課題が把握できていない生徒に対して、学習資料から具体的な技能ポイントを把握させる。			【態】、【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【思】、【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。 【努力を要する】と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【思】 課題が把握できていない生徒に対して、学習資料から具体的な技能ポイントを把握させる。	

G ダンス 第2学年

1 領域・種目の特性

ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通して交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

2 指導上の留意点

第1学年及び第2学年では、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通して交流ができるようにする。また、ダンスの学習に積極的に取り組み、仲間のよさを認め合うことなどに意欲をもち、健康や安全に気を配るとともに、ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにすることが大切である。

3 学習指導の内容

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通して交流ができるようにする。
- ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとままとまりの表現にしたりして踊ること。
- イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。
- ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせてリズムに乗って全身で踊ること。
- (2) ダンスに積極的に取り組みとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

4 単元の目標

- (1) 積極的に取り組みとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 自己やグループの課題解決を目指して練習や発表の仕方を工夫することができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとままとまりの表現にしたりして踊ることができるようにする。
(技能)
- (4) ダンスの特性、表現の仕方などを理解できるようにする。
(知識・理解)

5 「G ダンス」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準」

【「G ダンス」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとして、学習に積極的に取り組みようとしている。	ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて、交流できるよう、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解している。

	【ダンスの評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関心・意欲・態度	・ダンスの学習に積極的に取り組みようとしている。(1年) ・よさを認め合おうとしている。(1年) ・分担した役割を果たそうとしている。(1年) ・仲間の学習を援助しようとしている。(2年) ・健康・安全に留意している。(1・2年) ・自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。(1・2年) ・課題に応じた練習方法を選んでいる。(1年) ・発表の場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘している。(2年) ・学習した安全上の留意点を仲間と学習する場面に当てはめている。(1年)	①進んで仲間の動きの手助けをしたり、学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとしている。 ②体調の変化などに気を配ったり、用具や練習場所など、自己や仲間の安全を確かめている。
思考・判断	・創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとままとまりの表現にしたりして踊ることができる。(2年) ・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊ることができる。(1年)	①動きを誇張したり、変化を付けて「ひと流れ」の動きにしたり、思いつくままとらえたイメージをすぐに動きに変えて、表現したりして踊ることができる。 ②表したいイメージを変化と起伏（盛り上がり）のある「はじめ－なか－おわり」の構成で表現して踊ることができる。
知識・理解	・ダンスの特性について、学習した具体例を挙げている。(1年) ・踊りの由来について、学習した具体例を挙げている。(1年) ・表現の仕方について、学習した具体例を挙げている。(2年) ・ダンスに関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。(2年)	①スローモーションや密集、分散等、学習した体を使った表現の仕方を言ったり書き出したりにしている。 ②ダンスを行うことで、柔軟性、平衡性、筋持久力が高められることを、言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）第2学年

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
ねらい	【学習Ⅰ】 ○運動の特性や学習のねらい、学習計画を理解する。	【学習Ⅱ】<ねらい1> ○いろいろな仲間とともに、動きに変化をつけ、即興的にひと流れの動きにして表現することができる。	<ねらい2> ○仲間とともにテーマにふさわしい変化と起伏や場の使い方で、変化のあるひとまとまりの表現をすることができる。								【学習Ⅲ】 ○発表や交流を通して学習の成果を確かめ、学習のまとめをする。
	1 学習の見通し ・ダンスの特性や楽しみ方を理解し、自己の適性等について考える。 2 創作ダンスの学習 ・表したいイメージをひと流れの動きにする身体を使った表現の仕方があること。 ・ダンスを継続すること、で、柔軟性、平衡性、筋持久力がその動きに関連して高められること。 3 もの(小道具)を使った即興表現 (1)新聞紙を使っている即興(例：走る－放り投げる－体で受け止める等)。 (2)新聞紙を使って模倣 ①教師が行う。 ②2人組で行う。 (3)ひと流れの動きを練習。 (4)動きに変化を加えて、ひと流れの動きにする。 (5)二つに分かれ、見せ合う。	身近な生活や日常動作 「スポーツいろいろ」 「働く人々」等 対極の動きの連続 「走る－止まる」 「走る－跳ぶ－転がる」 「伸びる－縮む」 多様な感じ 「激しい」「急変する」「軽快な」「軟らかい」「鋭い」等 群(集団)の動き 「集まる－とび散る」 磁石、対決等	緩急や強弱、静と動を組み合わせる変化やめり合わせ つけた動き ダイナミックな動き、変化や連続の動きの組み合わせ	ダイナミックな動き、変化や連続の動きの組み合わせ	群(集団)の動き 「集まる－とび散る」 磁石、対決等 密集や分散の繰り返し ダイナミックな動き ミックスに空間が変化する動き	1 グループビンディング ・表したい内容を出し合い、イメージ別グループを作る。 2 グループごとの創作 (1)グループごとにイメージを出し合い、「はじめる」「終わるかーおわり」を見通しをもつ。 (2)互いに動きを出し合い、グループ創作をする。 (3)中心場面の「なか」から創作を始める。	1 前時の復習 ・これまで創作した部分を踊る。 2 「なか」の強調 (1)一番表したいところを明確にする。 (2)強調する動きや盛り上げがりを工夫する。 3 おおまかな作品づくり (1)なかーはじめるーおわり (2)作品にふさわしい「はじまり」と「おわり」を考える。 (3)「場面の展開」「個と群の動き」を工夫する。 4 見せ合い1 ・互いの動きを見せ合い、評価する。 5 動きの修正 ・アドバイスを生かして作品を修正する。 6 見せ合い2 ・その日のまとめとして踊る。	2 踊り込み ・表したい内容を強調して仕上げる。 3 作品の鑑賞 ・互いの動きを見せ合い、評価する。 4 動きの修正 ・アドバイスを生かして作品を修正する。	1 発表方法の確認 2 発表会 ・VTRの撮影と視聴。 ・仲間の発表を鑑賞し、相互評価を行う。 3 学習のまとめ ・学習資料に学習のまとめを記入する。 ○定期考査において、知識・理解、思考・判断の実現状況を判断する。		
学習過程	○ 集合、あいさつ、健康観察、本時のねらいの確認、ダンスウォーミングアップ (例)円形コミュニケーション、2人組ストレッチ、本時の課題に即したいろいろな動きの手掛かりからの即興 等										
関	②			①				①			
思			②			①			②		
技					①					②	
知	②				①				(①,②)		
評価方法等	【知】 については、主に授業後の学習カードの記述から実現状況を判断する。	【技】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【技】 動きが停滞している生徒やグループには、スローモーションの動きで誇張する、何回も繰り返す、動きを組み合わせる等、具体的な動きの工夫を助言をする。	【関】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 動きが停滞している生徒やグループには、スローモーションの動きで誇張する、何回も繰り返す、動きを組み合わせる等、具体的な動きの工夫を助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【関】、【思】 については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【関】 役割分担を確認し、行い方を説明する。 【思】 ポイントを学習カードや掲示物で示し、その中から選択して、助言をする。	【知】 については、主に授業後の学習カードの記述と定期考査・単元末試験により判断する。 【知】 については、主に授業後の学習カードの記述と定期考査・単元末試験により判断する。	

保健分野「傷害の防止」（自然災害による傷害の防止） 第2学年

1 単元の特性

傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、また、応急手当は傷害の悪化を防止することができることを理解できるようにする必要がある。

このため、本内容は、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境的要因及びそれらの相互のかかわりによって発生すること、交通事故などの傷害の多くはこれらの要因に対する適切な対策を行うことによって防止できること、また、自然災害による傷害の多くは災害に備えておくこと、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動すること、災害情報を把握することで防止できること、及び適切な応急手当は傷害の悪化を防止することができることなどを中心として構成している。

2 指導上の留意点

自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などによる二次災害によっても生じることが理解できるようにする。

自然災害による傷害が災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることから、その防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、冷静・迅速・安全に行動すること、事前の情報やテレビ、ラジオ等による災害情報を把握する必要があることを理解できるようにする。

なお、地域の実情に応じて、気象災害などを適宜取り上げることにも配慮するものとする。

3 学習指導の内容

- (1) 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。
- ア 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などがかわって発生すること。
- イ 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
- ウ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。
- エ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生法等があること。
- 4 単元の目標
- (1) 自然災害などについて、自分の経験や資料を用いて話し合い活動を行い、仲間と積極的に意見を交換することができるようにする。
（関心・意欲・態度）
- (2) 自然災害などについて、話し合い活動などを基に自分の生活の課題をとらえ、適切な行動を考えることができるようにする。
（思考・判断）
- (3) 自然災害などについて、様々な要因への適切な対策を理解し、また要因に対して適切な予防策や災害発生後の対策があることについて理解できるようにする。
（知識・理解）

5 「傷害の防止」の評価規準に盛り込むべき事項、評価規準の設定例及び学習活動に即した評価規準

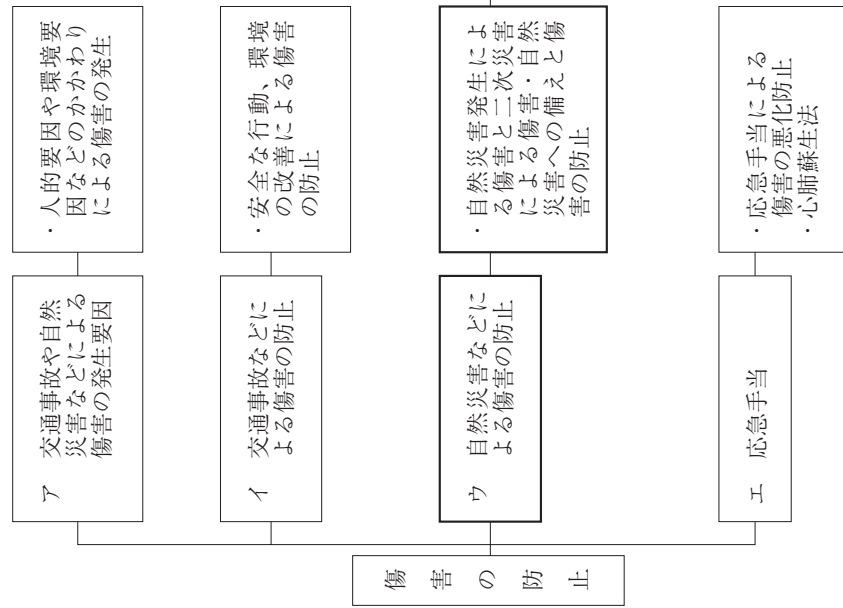
【「傷害の防止」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への関心・意欲・態度	健康・安全についての思考・判断	健康・安全についての知識・理解
傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	交通事故及び自然災害などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。

(小単元)

	【「傷害の防止」の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関・意・態	・傷害の防止について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ・傷害の防止について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①自然災害による傷害の防止について、資料や情報を活用したり、教師の説明・助言や仲間の意見を聞いたりしながら自分の考えや意見を発表しようとしている。
思・判	・傷害の防止について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・傷害の防止について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①自然災害による傷害の発生について、資料や仲間の発言等を基に予想している。 ②自然災害による傷害の防止について、学習したことや資料を基に考えをまとめ、仲間の意見と比較して筋道たてを説明している。
知・理	・自然災害による傷害の防止について理解したことを言ったり書き出したりしている。	①自然災害による傷害は、家屋の倒壊や家具の転落、転倒が原因で生じること、また二次災害によって生じることなどについて言ったり書き出したりしている。 ②自然災害による傷害の防止には日頃から安全の確保に備えておくこと、的確な判断と災害情報を把握する必要があることなどについて言ったり書き出したりしている。

6 単元の計画（指導と評価の計画）



時	1	2
ねらい	○自然災害の発生による傷害は、家屋の倒壊や家具の落下、転倒によって生じること、二次災害よって生じること、理解することができるようになる。	○自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、災害の発生時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、冷静・迅速・安全に行動すること、災害情報を把握する必要があることを理解できるようにする。
学 習 過 程	1 本時の学習の確認 2 自然災害による被害についての理解 (1)教科書等の自然災害の写真や近年の自然災害の資料を見て災害状況について教師の説明を聞く。 (2)阪神淡路大震災による被害のビデオ視聴する。 (3)どんな被害が起こったかについて、班でブレインストーミングを行い、自分の考えを発表し合う。 —指導すべき内容— ・地震による災害は、家屋の倒壊や家具の落下・転倒、電柱や看板などの落下・転倒などによって起こること。 3 自然災害による二次災害についての理解 (1)自然災害による二次災害の被害について、教師の説明を聞く。 (2)危険を回避するための手立てを考えて、班内で意見を出し合い、ワークシートにまとめる。 —指導すべき内容— ・二次災害により、火災などによる被害が拡大すること、地震に伴い起こる津波や土砂崩れなどによる被害が起こること。 ・水道、電気、ガスの供給が断たれること。 4 学んだことを基に地震等の災害が起きた時の通学路や学校内での災害についての予想 (1)通学路周辺の地図や校内配置図を見て、どこでどんな災害が起きる可能性があるか、危険箇所等を考え、班内で意見を出し合う。 (2)地図に書き込んだ内容や話し合ったことについて発表する。 5 本時のまとめ (1)学習シートに本時のまとめを行う。 (2)教師の話聞く。	1 本時の学習の確認 2 災害が起きた時の行動についての理解 (1)過去の災害から学ぶ教訓について、教科書等の資料を見ながら、教師の話聞き、確認する。 (2)教訓や自分の意見ワークシートにまとめる。 3 災害の情報収集についての理解 (1)災害時に的確な情報を得るためには、どのような手段があるか班で話し合い発表する。 (2)教師のまとめを聞き、話し合った内容と比較する。 —指導すべき内容— ・地震が発生したときは、正しい状況判断、落ち着いた素早く安全な行動、ラジオ等で正しい情報を得るなど適切な行動が大切で、被害を最小限にとどめることができること。 3 災害の備えについての理解 (1)学校備蓄倉庫内の写真を見て、災害のための備えには何が必要かを考え、非常時に必要なものについて考えて、ワークシートに記入し、意見交換をする。 (2)自分の家庭に必要な備蓄の内容や必要数について、自分の考えをワークシートにまとめる。 (3)家庭の災害用備蓄の現状と災害時の集合場所の有無等やその安全について友達の見解と自分の意見と比べながら、ワークシートにまとめる。 —指導すべき内容— ・災害の備えとして、水や食料等の他、家族の集合場所や行動などの確認が大切であること。 4 本時のまとめ (1)自然災害による傷害の防止について学習したことを、学習シートを活用し、相互評価や自己評価を行い、学習のまとめを行う。 (2)教師の話聞く。
関	①	②
思	①	②
知	①	②
評価方法等	【関】【思】については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【知】については、学習カードの実現状況や定期テストで判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て 【思】 自己の生活と関連して考えられるように助言をする。	

【知】 理解できていない点について、繰り返し指導する。

H 体育理論 第2学年

1 単元の目標

- (1) 運動やスポーツの意義や効果などについて、関心をもち、仲間と意見交換をしたり、記録をしたりして進んで学習に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 運動やスポーツの意義や効果などについて、意見交換、情報の取り出し、分析を通して、適切な解答を見つけることができるようにする。
(思考・判断)
- (3) 運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。
(知識・理解)

2 「体育理論」の評価規準の設定例及び、学習活動に即した評価規準

	【体育理論の評価規準の設定例】	【学習活動に即した評価規準】
関 意 態	・運動やスポーツの意義について、(情報を集めたり、意見を交換したりするなどの)活動を通して、学習に積極的に取り組もうとしている。	①運動やスポーツの意義について、意見を交換をしたり、ワークシートに考えをまとめたりするなど、学習に進んで取り組もうとしている。
思 判	・運動やスポーツの意義や効果などについて、出された意見や集めた情報を分析したり、整理したりしている。	①運動やスポーツの意義や効果について、自分の意見と他の意見を比較したり、分析したりして、自分のことばでまとめている。
知 理	・運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、言ったり書き出したりしている。 ・運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について、言ったり書き出したりしている。 ・安全な運動やスポーツの行い方について、言ったり書き出したりしている。	①運動やスポーツを行うことによる身体的・心理的な効果について、言ったり書き出したりしている。 ②運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意することや、適切な人間関係を築くことで社会性の発達に及ぼす効果があることについて、言ったり書き出したりしている。 ③運動やスポーツを行う際の安全な行い方について、言ったり書き出したりしている。

3 単元の計画(指導と評価の計画)

時	1	2	3
ね ら い	・運動やスポーツが心身に及ぼす効果について理解できるようにする。	・運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について理解できるようにする。	・運動やスポーツを行う際に、健康・安全に留意する必要があることについて理解できるようにする。
学 習 過 程	Q 運動やスポーツをしてスッキリしたり、自信がもてたりしたことがありますか? →全体の傾向を確認 1 どんな感じだったか発表する。 Q 皆さんは、何のために、運動やスポーツを行うのですか? →次の二つのテーマから考える。 (1)身体的な面 (2)心理的な面 2 ワークシートにまとめる。 3 グループワークを行う。 運動やスポーツを行ったときの効果について、二つのテーマから出された意見をもとに、グループ内でそれぞれ発表し、まとめてみよう。 (1)身体的な効果 ①身体の発達やその機能の維持、体力の向上 ②肥満予防の効果←<u>食生活の改善</u> (2)心理的な効果 ①達成感 ②自信の獲得 ③ストレスの解消、リラックス ④感情のコントロール 4 運動やスポーツを行う際に、目当てとなることを身体面、心理面のそれぞれについて、ワークシートにまとめる。 運動やスポーツは、心身両面への効果が期待できる	Q ルールや約束事のない中でゲームや運動をすると、どうなってしまうでしょう? また、そういった状況をどのように思いますか? 1 ワークシートに記入する。 ルールやマナーを守って行うからこそ、やりがいや楽しさを感じることができる。 2 グループワークを行う。 お互いにやりがいをもって楽しくスポーツや運動に取り組むことができるには、どんなことが必要か、その条件について話合ってまとめてみよう。 3 グループに分かれ、ブレインストーミングを行い、意見を引き出す。 4 出てきた意見を次の観点ごとにグループワークシートにまとめる。 (1)ルールや約束事に関して (2)人間関係に関して 5 班毎に発表する。 6 運動やスポーツで培った社会性を日常生活のどんな場面で生かしていきたいか、個人のワークシートにまとめる。 運動やスポーツで培った社会性は、日常生活にも生かすことができる	1 今までの自分の運動場面を振り返ってみて、ケガをしないように気をつけてきたことをワークシートに記入する。 例 準備運動をしっかりとる。 体調を整える。 場所や用具の安全を点検する。 適度に休憩や水分補給をする。 2 グループワークを行う。 運動やスポーツを行うときのケガやトラブルを起こさない「心得」を作ってみよう。 3 グループごとに話し合い、個人のワークシートにまとめていく。 ※話し合いの視点 (1)計画面 (2)身体的な面 (3)環境的な面 (4)自然や気象 (5)もしもケガなどが起きてしまったら等 ※自分たちが守っていくという視点で話し合わせる。 ※特性や目的を押さえる。 4 「心得」を発表する。 視点ごとに発表の分担をしておく。 → 事後指導に生かす発展例 パネル・掲示板 等 ※まとめたものは、後で掲示する。 5 運動やスポーツを行う際の安全な行い方について、確認する。 運動やスポーツにおける安全な行い方 まとめの確認テスト 活用問題・知識問題
関	①		①
思		①	
知	①	②	③
評 価 方 法 等	【関】については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【知】については、ワークシートの記述から実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て ・今までの経験を想起させる。	【思】【知】については、個人のワークシートの記述から実現状況を判断する。	【関】については、主に授業中の生徒の観察から実現状況を判断する。 【知】については、定期テスト・単元末確認テストにより実現状況を判断する。 「努力を要する」と判断できる状況(C)の生徒への指導の手立て ・自分の経験等に当てはめさせて考えさせるようにする。